

# 令和5年度学校自己評価システムシート (県立羽生第一高等学校)

目指す学校像	地域の期待に応えるため「自主・自律 求めて強き風に立つ」の精神のもと、積極的に課題解決に挑戦する生徒を育成する。
--------	--

重点目標	1 基礎学力に裏打ちされた学力向上の結果、高いレベルの進路実現を図る。 2 保護者と連携して、地域の模範となるような規範意識を醸成する。 3 活気に満ちた生徒の姿と特色ある教育活動を発信し、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価(2月1日現在)			実施日	令和6年2月7日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>(現状) 生徒の進路先は、大学から専門学校、就職と多岐にわたる。本校の特色である朝読書や新聞活用等の取組みは校内で定着しており、生徒の達成状況も安定した成果をあげつつある。令和5年度入学生から導入されたタブレット端末では、授業を始めとする教育活動等で、効果的な活用が求められている。</p> <p>(課題) 生徒の家庭学習の定着が課題である。高い目標の設定と進路実現に向けた、主体的な姿勢の育成が必要である。また、タブレット端末の効果的な活用方法の検証と観点別評価の改善に向けた共通理解を深め、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善につなげていく。</p>	<p>①<b>早期の目標設定の実現と、進路実現を見据えた学習時間の確保</b></p> <p>②<b>積極的な授業改善に向けた取組の実施。</b></p>	<p>①総合的な探究(総探)指導の一環として、新聞活用指導(NIE)を実施し、社会への興味関心につなげる。 ①生徒の主体的な家庭学習時間を確保 ②教員の学び合いや研修会を実施し、授業力及び指導力向上につなげる。(タブレット研修会等) ②新学習指導要領を意識し、観点別評価の研究を行う。</p>	<p>①総探や NIE を通して、生徒の視野の拡大につながった生徒が7割以上あったか。 ①家庭学習の時間平均が、昨年度データより1時間以上増加したか。 ②校内ICT環境の十分な活用を進め、教職員のスキルアップにつなげることができたか。 ②観点別評価の共通理解と評価による指導の改善につなげることができたか。 (②教員アンケートにより肯定的な自己評価が割合7割以上回答があったか。)</p>	<p>生徒及び保護者、教員アンケートによる状況分析による。 ①総探、NIE 活動から視野の広がりを実感した生徒の割合 67.8%(昨年度平均 71.4%) ①家庭学習時間は昨年データと同程度(定期的な2時間以上学習 9.0%) ②タブレット端末の積極的な活用 69.0% ②観点別評価の理解と指導法の工夫 91.6%</p>	B	<p>真面目で誠実な生徒が多く、落ち着いた環境で学校生活を送っているが、生徒の自主的な活動には課題がある。本校の特色である「朝読・NIE 活動・一高手帳」に関するアンケート結果より、一部の生徒に「やらされている感」があり、自己教育力に課題がある。教育活動実施前には、その目的や意義を理解させた上で実施することが必要であろう。こうした一つ一つの指導が、生徒個々の高い目標設定やその実現に向けた取組(家庭学習や自主活動等)にも作用すると考える。 タブレット端末導入により効果的な活用が求められる中、授業改善に向けた研究授業を実施している。教員相互の授業参観について積極的に行い、意見を交換できる場を検討したい。 進路指導においては、生徒や保護者が期待する指導が概ね実施できている。引き続き、多様な進路に対応した適切な情報提供と個に応じたきめ細かな指導を実施したい。</p>	<p>・授業の様子も落ち着いており、挙手する場面も見られた。校内が整理整頓され、学習環境が整備されている。 ・多様な進路対応したきめ細やかな指導を実施している。1年生のうちに中学校の復習に取り組んでおり、キャリア教育にも連動しており評価できる。 ・ここ数年間、感染症対策により多くの教育活動が中止された。学校規模縮小による教員数の減少もあり、学校行事等の精査する時期にきているのではないかと。勇気をもって見直しをすべきである。 ・緊急時等の学校からの情報発信は保護者の安心感につながる。 ・タブレット端末の効果的な活用は大きな課題になっている。学力向上に向けた教材研究を教員間の学び合いで進めて欲しい。</p>
2	<p>(現状) 礼儀正しく、真面目で落ち着いた生徒が多い。一方で、主体的な課題解決に向けた行動力が弱い。</p> <p>(課題) 課題解決に向けた主体的な行動と持続する力の育成が必要である。進路実現と生徒指導の一体化にむけ、保護者とも連携していく。</p>	<p>「一高基準の規範意識」を身近なものとして置き、日頃から<b>一高生としての自覚と誇りを育てる。</b></p>	<p>○全教職員で定期的な整容指導と積極的な挨拶指導にあたり、生徒の規範意識を向上させる。 ○「一高手帳」の活用に向けた指導により、生徒の時間管理・自己管理能力を高める。 ○ボランティア活動等、主体的に参加する事業を推進する。</p>	<p>○一高基準を遵守し、積極的な挨拶励行ができた生徒7割以上あったか。 ○キャリアパスポートを意識した「一高手帳」の活用指導を理解し、有効に活用することができた生徒7割以上があったか。 ○校内外において主体的に行動した生徒が4割以上あったか。</p>	<p>○一高基準を遵守した生徒の割合 93.9%(昨年度 97.2%) ○自主的に学習環境の整備を行った生徒の割合 95.8%(昨年度 93.5%) ○一高手帳の十分に活用した生徒の割合 30.5%(昨年度 39.7%) ○ボランティア活動 1回以上参加 17.1%</p>	B	<p>一高基準遵守のポイント数が昨年度比較で低下がみられたものの、全体的に大きな乱れもなく落ち着いて行動している。挨拶については率先して教職員が範を示している。一高手帳の活用は課題であり、継続的な使い方の指導及びタブレット導入に伴う今後の活用について協議していく方針である。また、相談を必要としている生徒へ対応を行っている。今後も教育相談活動やスクールカウンセラーと連携し、効果的な推進のための体制の充実と生徒・保護者への周知を継続していく。</p>	<p>・「一高手帳」については昨今のDX化に沿ってデジタル化を進めていく必要があるのではないか。 ・一部の生徒の軽率な動向が学校の評判につながる。生徒の主体的な活動を支援しつつ、生徒と教職員が十分な対話をしていく必要がある。 ・校外において、生徒会の主体的な募金活動は大変素晴らしい。生徒会のみならず、他の生徒の参加を募り、学校全体の活動に繋がるといいのではないかと。</p>
3	<p>(現状) HP、学校だより等の発行など広報活動に力をいれているが、ここ数年生徒募集に苦戦している。</p> <p>(課題) 魅力ある教育活動・部活動等について更に情報発信し、効果的な生徒募集につなげていく必要がある。</p>	<p><b>保護者・地域連携を強化し、魅力ある教育活動の情報発信を確実に実施する。</b></p>	<p>○HP更新(行事・部活動・特色ある授業等)を積極的に更新する。 ○「一高だより」の発行および配布し、教育活動の一層の理解を求める。 ○地域連携や異校種交流を計画的に進め、学校理解につなげる。</p>	<p>○生徒から見た学校の実態調査(生徒アンケート)を実施し、生徒募集に活用していく。 ○HP更新(教育活動、部活動等)定期的に行われたか。 ○「学校だより」を月1回程度発行できたか。 ○学校説明会でのアンケートの実施と、ニーズに合った情報提供ができたか。</p>	<p>○新入生の実態把握により、中学校及び学習塾へ情報提供を実施した。 ○HP更新を年6回以上実施した教員の割合 50.0%(昨年 47.4%) ○「一高だより」発行8号(1月末現在) ○学校説明会後のアンケート分析による情報提供を実施できた。</p>	A	<p>生徒を前面に出したり、学校動画紹介を作成したり、と学校説明会の内容を一層充実させた。今後、教職員はもちろん、生徒から発信する生徒募集に向けた活動を工夫していきたい。 HPでは、日々の教育活動や部活動等、昨年度より積極的に更新している。次年度は、「見たい、見やすいHP構成」について協議していきたい。</p>	<p>・生徒募集は教員だけで行うものではない。生徒も学校の看板を背負っている。学校全体で一高を盛り上げて欲しい。期待している。</p>

